



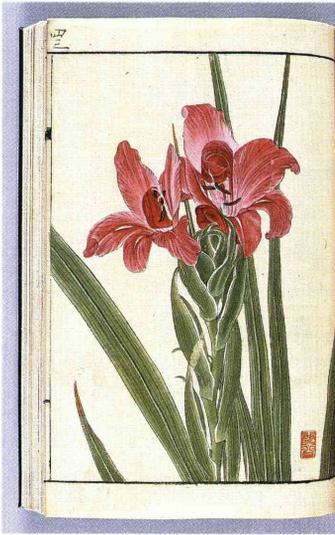
口絵1 『植物図説雑纂』別6-9本、冊1表紙

左側の題箋の字は編者伊藤圭介の自筆を刻したものの。右には「孫伊藤篤太郎ニ囑托」と圭介が記した紙片を貼付。紙片の下方に「尾張伊藤／圭介之印」、左に「伊藤／篤太／郎記」の朱印が捺されているが、前者は汚れがひどい。本文8頁参照。



口絵2 『植物図説雑纂』別6-9本、冊1の扉

中央に伊藤圭介が「植物図説雑纂／伊藤篤太郎ニ与フ／陸統尚増補スベシ／明治十五年六月 伊藤圭介記」と記す。周辺に印は：右上から、「錦窠」白方印（圭介の号）・「伊藤篤太郎記」朱方印・「伊藤圭介」朱方印・「伊藤篤記」朱円印・「尾張伊藤圭介之記」朱印・「明治十六年我齢八十一」白方印、中央下に「花繞書屋」朱円印（圭介の堂号）、左上右は「九十一翁」白印（逆さまに捺印）、左上左は「九十一翁」白印（竹印）、その下に「九十二翁」白円印・「九十二翁」朱円印・「明治十五年我齢八十」白方印・「伊藤圭介書画記」朱方印。下に「伊藤きやう氏寄贈本」（篤太郎夫人の京子）青印と「昭和十九・三・二十二寄贈」朱円印もある。本文3頁参照。



口絵3 服部雪斎のグラジオラス図（『植物図説雑纂』別6-9本、冊118）

『植物図説雑纂』には、幕末から明治初期に博物画家として活躍した服部雪斎の植物画が、数多く残っている。これもその一つで、紙背に「ガラジウル・ラモシユー」の名が記されている。ただ、年月日も無く、写生にいたる事情はわからない。本文11頁参照。



口絵4 「夏百合」（『植物図説雑纂』別6-9本、冊215、『資生圃百合図』より）

幕臣馬場大助（号、資生）は『群英類聚図譜』や『遠西舶上画譜』など、植物図譜の大作を残して明治元年（1868）に没した。『資生圃百合図』も大助の作で、明治7年（1874）に伊藤圭介は、知人の園芸家クラマー（C.Kramer）がこの図譜を所有していると知って、画家加藤竹斎（のち小石川植物園に勤務）に写させた。その図40点が『植物図説雑纂』に残っているが、原本は行方不明。本文21頁参照。